

# Management and risk factors of pleural effusion in Japanese chronic myeloid leukemia patients treated with first-line dasatinib in real-world clinical practice

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土屋, 俊 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002789">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002789</a>

## 論文内容の要約

順天堂大学	博士 (医学)	氏名	土屋 俊
論文題名	Incidence, risk factors and management of pleural effusion in the first line dasatinib treated Japanese chronic myeloid leukemia patients in real-world clinical practice		
	初回ダサチニブ治療CML患者における胸水のリスク因子とマネジメント		

### 論文内容の要約 (1,000字~1,500字)

#### 【目的】

チロシンキナーゼ阻害薬 (TKI) が登場して以来、慢性骨髄性白血病 (CML) 患者の治療成績は飛躍的に向上した。しかし、治療期間が長期化するため、日常診療では様々な有害事象 (AE) が課題となっている。DasatinibはCMLおよび再発又は難治性のフィラデルフィア染色体陽性ALL治療に承認されている第2世代TKIである。胸水 (PE) はダサチニブ治療を受けた患者の中でも特に高齢者に多くみられるAEの一つである。胸水はDasatinib投与患者の約3割に発症するとされ、DASISION試験5年間のフォローアップにおけるサブ解析の結果では年次ごとに10%程度の新規発症を認める。しかし、日本人CML患者における胸水のリスクファクターの情報は限られている。マネジメントとしてはTKI中止あるいは減量、利尿剤および短期間のステロイド療法などが一般的に行われ、そのリスクファクターとして年齢、心疾患の既往などが報告されている。

【方法】本研究は、369例のCML-CSGデータベースから、ダサチニブを初期治療として投与された慢性期CML患者89例を対象に、既報に基づく15の危険因子、PEの管理、治療効果を解析したものである。単変量解析では89例中44例 (49%) にPEが発生し、胸水 (+) 群 (N=44) および胸水 (-) 群 (N=45) を対象に、既知の胸水リスク因子に関する単変量解析を行い、年齢 (65歳以上)、HT、DM、腎機能障害、心疾患の既往、初回投与減量が抽出された。多変量解析では年齢 (65歳以上) がリスク因子として抽出された。

【結果】一般的に胸水は用量依存性に増加すると考えられているが、本研究では薬剤減量群において有意に胸水の合併を多く認めた。さらに、過去の臨床試験においてDMR達成群で有意に胸水貯留が高頻度であったとの報告があるが、本研究では有意差が認められなかった。過去の報告とは異なった結果が得られた理由として、Real worldの日常診療では高齢や基礎疾患を有する患者においてダサチニブが減量される傾向にあり、結果として薬剤を減量したものの、胸水貯留の高リスクであったため合併例が増加した可能性を考えた。

【考察】ダサチニブ投与患者における胸水のリスク因子として、単変量解析では年齢 (65歳以上)、HT、DM、腎機能障害、心疾患の既往、初回投与減量が多変量解析では年齢 (65歳以上) が抽出された。胸水マネジメントに関する解析では有意差は得られなかったものの、薬剤の減量が有効である可能性が示されたことから、今後さらに症例数を増やし再度解析を行う予定である。